

(様式)

平成 29 年度 現地新技術導入経営改善実証展示ほ 成果情報

にら新品种「ゆめみどり」のウォーターカーテン利用 連続収穫における収量性向上

要約

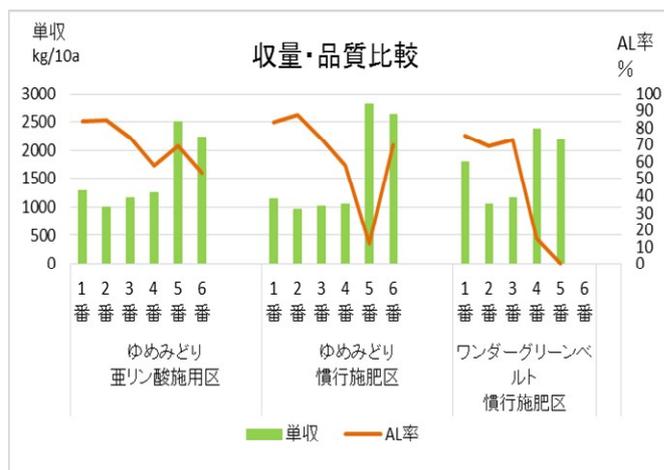
ゆめみどりはウォーターカーテンを用い、早期収穫開始する年1作作型において品質面・収量面で優れている。合わせてウォーターカーテンの設備投資を考慮しても経営的にメリットがあることが確認された。

展示のねらい

「ゆめみどり」は連続収穫による葉幅の低下が少なく、葉鞘部が長く調整作業が容易で、また連続収穫に適した品種である。

1年1作連続収穫では低温に当てないため、地上部の光合成産物を地下部に十分転流できないまま捨て刈りを開始することになる。昨年の試験では、収穫回数が進むと葉幅が大きく落ちたことから、株養成期間の株の充実を高める必要があることが分かった。そこで、本年度の試験では株養成期間中に亜リン酸資材を施用し、収量・品質の向上を図る。

主な成果



ゆめみどり（亜リン酸施用区、慣行施肥区）は徐々にAL率が低下したが6番刈りでも60%程度は維持出来た。また亜リン酸施肥の効果は判然としなかった。

ワンダーグリーンベルトでは4番刈り以降品質が低下し5番刈りではAL率が0%となってしまう、ゆめみどりは収量品質面で優れていることが確認できた。

ウォーターカーテンでは被覆資材が少なく換気作業性が優れている。また昼間換気を強めにし、昼と夜の温度格差を小さくすることで品質向上につながった。

今後の方向性

ウォーターカーテンを導入する場合、厳寒期の換気方法が従来と違うことを理解してもらう必要がある。一方で株養成時期の散水に代用できるなど定植後の管理も省力化できるなど、冬期以外での活用メリットも併せて周知し普及を図る。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：下野市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315